

公民館報

たかき

【第653号】

発行日 2023年11月16日

発行責任者 喬木村公民館長

林 司

編集責任者 公民館編集部長

池田 英明

印刷 龍共印刷株式会社



写真：喬木カメラクラブ 仲田博彦 「ある日、秋の営み」

題字：真浄寺書道会 池上 咲

術祭 開催

元気に
活躍中!

が11月7日～12日に行われました。

の皆さんがご参加いただき、盛大に開催することができました。

の中から、長年活躍されている方々を紹介します!

活動の動画

市岡 泉 さん



盆栽歴 60年
お気に入りの9つを展示

派手さはなくとも何十年も岩に根を張り続けるイワヒバの素朴な佇まいに惹かれ、60年にわたって自宅の庭で石付き盆栽を育てています。展示に出すのは初めてで、数ある中からお気に入りの9つを皆さんに見てもらいました。毎年春になると青々しい葉がよみがえるイワヒバに負けないようにと、毎日の水やりに汗を流しています。

木下 耕貴 さん

飯田広域シルバー人材センター



人の役に立って、
みんなに喜んでほしい

草刈業務など、その活躍の舞台は多岐にわたります。村内施設での奉仕活動を含み、私達は知らず知らずのうちに、お世話になっています。

木下さんは、多い年で年間50回を超える演芸ショーを行い、喬木村にとどまらず、社会福祉施設の慰問をはじめ、敬老会や記念事業に花を添えています。

人の役に立って、皆に喜んでほしいという熱い思いが、今も木下さんを突き動かしています。

こうして蒔かれた共助の種が芽を出し、大輪の花を咲かせ、喬木村全体に広がることを夢見ている。

みんなで健康! 笑顔



笑って健康 笑いヨガ



喬木アレグリ FC.jr



アコーディオンサークル秋桜+1



喬木村消防団

みんな
いきいき

喬木村芸

公民館主催の「喬木村芸術祭」

作品展示に43団体(個人)、活動PR動画に16団体

今回は、喬木村芸術祭に参加された皆さん

作品展示



鞍馬 敬久 さん
阿島民謡保存会



阿島民謡を
後世に歌い継ぐ

喬木村にお住まいの特にお若い皆様、阿島民謡をご存知ですか？10番まで歌詞があること、その歌詞は俳句を募集したものであることを。その阿島民謡を唄っていらっしゃるのが町にお住まいの鞍馬敬久さんです。「丹山(にやま)範竜」の名で師範をされています。喬木では阿島ふるさと祭りで1回唄っただけとか。全国の民謡大会では優勝・最優秀賞をいくつも獲っておられ、ご自宅には1メートルを超える大きなトロフィーがいくつもあります。是非皆様、鞍馬先生の歌声をじっくり聴いてみて下さい！



松島 明夫 さん



規律に囚われない
言葉遊びが川柳の魅力

趣味は川柳。普段の何気ない様子や何か大きな出来事があった時、気づいたことを文字にして残すことを30年以上続けています。その時々々の世情を如実に表したものもあり、時代の記録としての面白さもあります。生活に彩りと良いリズムを与えてくれる大切な趣味であると感じました。「出品作：襟足は 追い越すまでの 百合の花」

現役高校生
による

高校生による合同説明会グループ・喬木村公民館 共催

合同高校説明会 開催

9/2
開催

「偏差値だけじゃない高校選びをして欲しい!」という高校生の皆さんの思いから、「合同高校説明会」を喬木中学校で開催しました!現役高校生から直接お話を聞く貴重な機会となりました。

3年生 高校別説明会

5つの高校に参加をいただき、高校ごとに分かれ、それぞれの高校の特徴や様子についてお聞きしました。体験入学やHPの情報だけでは分からなかったことが多くありました。



【3年生の感想】

- 実際にその高校に通っている人の話を聞くことで、自分のイメージと違うことや細かいところまでわかったのがとても良かった。
- 自分の行きたい高校がどのような雰囲気なのか、どのようなことをしているか、卒業後の進路などについて色々聞くことができた。これからも自分の行きたい高校について調べていきたい。



高校生の皆さんありがとうございました!

1・2年生 高校選択について

飯田女子高校の小池さん達に、高校とはどんなところか、これからどう選択していけば良いかについてお話を聞きました。



情報が増えることで高校の選択がしやすくなること、中学校との違いなどのお話を聞く中で、高校に対する具体的なイメージが湧いていきました。

【1・2年生の感想】

- 説明会を聞くまで学力のことばかり考えていました。でも、一番大切なのは自分がどこで何をしたいかだと思いました。
- 高校の雰囲気や様子などは自分に合っているかわからないから3年生の体験がとても楽しみです。
- 高校選びはチャレンジする場所を選ぶことと考えて選びたいと思いました。

この折念館は市民の声から設立されたという事です。私達の足元(飯田下伊那)にこれだけの戦争にかかわる遺品があり、それらはその時を映し、それと共にあったその人の人生を垣間見せてくれるものでした。そこには「声なき声」があり、戦争体験を語る方が少なくなる中で、その声に耳を傾けることを私たちは忘れてはいけないうちも忘れません。それらの遺品は概ね時系列に沿って展示されていて、「戦争に向かう時代」



(平和学習会実行委員会)

「戦時中」、そして「終戦直後」と、その時々流れてきた空気のようなのを何となく感じる事が出来ました。印象的だったのは、言論の統制が強まってきたであろう時代の流れの中で、戦争の足音が徐々に近づいてきていたように思ったことです。過ちを繰り返さないためにも歴史の真実を知ろうとする事の大切さを思いました。

令和5年度 第二回平和学習会 飯田市平和折念館見学

10/21
開催

公民館体育部

秋のスポーツ交流会

10/15 開催



五月に開催された春のスポーツ交流会に続き、誰でも気軽に参加できる「秋のスポーツ交流会」が十月十五日に開催されました。今回は新たに「モルック」を種目に追加！木製のピンを投げ、1〜12の数字が書かれたピンを倒します。得点が50点ちょうどになると勝ちです。ボーリングに似たゲームですが、倒したピンの本数により得点の加算方法が異なり、なかなか頭



○今回行った競技○

- ・室内ペタンク
- ・ふらばーるバレー
- ・囲碁ボール
- ・卓球
- ・モルック

を使います：50点を超え25点に戻ると、悔しさが顔に表れる場面もありました。しかし、予期せず50点にピタリとはまると、驚きと喜びの歓声が上がリ、「ハマリそう！」という声も。モルックに次回も参加してみたいとの意見をいただきました。あいにくの雨ではありましたが、五十二名の皆さんにご参加いただき、室内競技を時間いっぱい楽しみました。

クラブ・サークル紹介

喬木ミニバスケットボールクラブ



①いつから活動していますか？

1987年から

②いつ活動していますか？

毎週 月・木の夕方、土曜午前中

③何名で活動していますか？

24名



全力で走っています！

喬木ミニバスケットボールクラブでは、喬木村の小学生（女子）24人で練習をしています。練習や試合は厳しいですが、みんな元気で明るくとても仲がいです。また、海水浴やお楽しみ会（ボウリング・焼肉）、スキー合宿などがあり、バスケ以外の楽しみもたくさんあります。興味がある人は、ぜひ見学に来てください。

毎週土曜日は、午前八時三〇分より正午まで、月曜・木曜日は、午後五時三〇分より七時まで、中央社体と第一小で、児童がボールを追う姿が見られます。小学校一年生から六年生までの二十四名ほどの児童が所属する女子バスケットボールチームです。

ランニング、ステップをはじめ、シチュエーション別のシユート練習、試合を想定したゲームに取り組みます。ボールの弾む音、それを追うバスケットシューズから出るキュッキュという音とともに、熱い試合が展開されます。発足は一九八七年のことです。三十五年を超えます。

スポーツなど種目によって、は部員が集まらず、廃部や校外・他団体との合同チーム編成により、かろうじて続けているところもあります。

そんな中、地元中学で部活を続けるきっかけの場となっており、長年指導されておられる監督・コーチをはじめ、保護者の皆さんに心より敬意を表します。

#現在、部員募集中です#

撃り！の たかぎの子

突し

たかぎ第二子ども教室 「あそびの広場」

たかぎ第二子ども教室は、放課後の子どもたちの安心・安全な遊びの場として、喬木第二小学校の体育館と校庭を利用して行っています。授業が終わってからの短い時間ですが、児童クラブとは違いますので、参加も自由。時間間で友だちと楽しく遊びます。基本的には自由に遊びますが、月に一回「あそびの広場」としてみんなで一緒に遊ぶ日を設けています。ただ、感染症による影響でここ数年中止していたため、今年度久しぶりに再開しました。



がんばれ～
いいぞ～!



どっちが近いかな?

のですが、説明を聞き、いざ始めると一転、チームでどうすればいいのか相談したり、大きな子が小さな子にやり方を教えたり、試合の時には応援したりと大盛り上がりでした。



楽しかったね!



【笑顔がふさふさとウォーキング】
富田分館長 尾賀 博雄

富田分館での活動として、コロナが5類に移行となり、他の地域でも行事が再開されて行く中、「安全に配慮し、区民が集える屋外のイベントを一つは実施したい。」との思いがありました。そこ

で、昨年末に実施した区民アンケートの結果を踏まえ検討を重ね、区民が整備を進めている城山公園を目的地とした「富田ふるさとウォーキング」を企画しました。

十月二十九日、清々しい秋晴れの中、園児から八〇歳を超える一〇五名と予想を超える参加者でした。

南部防災センターを出発し、富田諏訪神社下社廻り舞台・火定仏堂・富田城（城山公園）と史跡を巡り、南部防災センターに戻る3.3kmのコースです。

コロナ禍以降、春祭り、事念仏など伝統行事の風化が懸念されている中、史跡を巡り由来を聞くことで、伝統行事の意味を理解するとともに富田の歴史を学ぶ良い機会となりました。

城山公園では、新たに拡張した遊歩道や植樹した花木を散策しながら富田の景色、雄大なアルプス山脈を眺め、子供たちは中央保育園から譲り受けた新たな遊具で遊び、昼食は分館で用意したおにぎり弁当を家族や久しぶりに会う方々と食べ語り、締めめのビンゴ大会は大いに盛り上がりました。四年ぶりのイベントは、楽しいうちに幕を閉じま



した。

参加者にはアンケートにご協力をいただき、ご意見は今後の富田分館の活動に活かしていきたいと考えています。

公民館活動も時代とともに変化して行かなくてはならないと感じています。

公民館の目的である「住民が主体となり集い、学び、つながる事により、「コミュニティを築く」を念頭に、今後の活動を進めていければと思います。

(活動) やつとるにー!!

喬木村俳句会 神無月句会 詠草

高窓の溢るるばかり今日の月
満天の星に負けんと虫時雨
木下 瑞恵

都会より子等も集ひて稲を刈る
幼児の初めての靴コスモスと
矢澤 恵美子

秋高し起重機並ぶ美し郷
地響きの稲穂の香り立ち込めて
松島 みのり

はしゃぐ子と和む親族栗ご飯
語らひて思ひし空き家秋の夕
宮島 高枝

鈴鳴らし先祖が招く茸の城
父の影新葉叩き草履編む
村山 たか子

白萩の垂るる山道声弾む
山の端に沈む夕日や秋茜
原 美恵子

永らへて眠れぬままの良夜かな
冷やかやきりきりしやんと髪を結び
西元 くにこ

胡弓の音再度聞きたし風の盆
ゆるゆると子等の住む地へ罌雲
市橋 ヨリ

介護士の声穏やかに虫の夜
駆け上がる少年の空罌雲
松葉 孝子

つづれさせ一夜減びの声激し
（つづれさせニコオロギのこと）
吉川 てる子

金木犀切り口浮かぶ母の顔

たかぎ短歌会 神無月歌会 詠草

たまさかに古き歌集見つかりて同窓会の歌口遊む
知久 美子

御射山の祭りに孫ら十三人谷をゆるがす花火に歓声
和田 京子

秋の月うさぎ跳ねるか餅つくか想い遊ばせしばし眺める
塩津真由美

雨降らず咲くに咲けない紫陽花は色変わりせず秋風の吹く
内山 貴子

八十歳の記念に植ゑし百日紅の花咲き継ぎて健やかに在り
木林 睦枝

親族となりしばかりの孫嫁は敬老の日だと笑顔運び来
市瀬 准子

秋草の茂みに集く虫の声 我が狭庭にもオーケストラ来る
元島 康子

夫と行く友が主催の健康教室に他人事ならず「認知症」予防
田中 妙子

採りたての紺鮮やかな秋茄子に誘われ夫は急ぎ漬けたり
内山 和子

草刈しあと振り返り清し土手汗を拭いてホット一息
木下 寿子

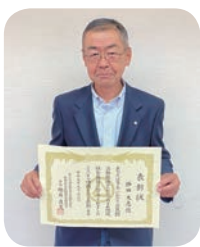
どの花もきれいですねと羽根休めアゲハ蝶たち花巡りする
小椋 りよ

炎天下庭のプールの歓声は曾孫が挙げる我が家の真夏
塩津 静男

飲み友の遺ししボトル呷りたり陰膳設え校歌ハミング
福澤 亀人

長年の活動に感謝

仲田久志さん 公民館表彰を受賞



長年公民館編集部として活躍いただいた北の仲田久志さんが、公民館活動推進功労者表彰を受けられました。

仲田さんは平成5年4月から30年間公民館報の作成に携わり、平成～令和と時代が動く中で、村内の皆さんの活動を発信していただきました。

長年の公民館活動に感謝申し上げます。



お知らせ

第36回 棕鳩十夕やけ祭

日時 令和5年11月26日(日)
13:30～※記念講演会は15:00～
内容 表彰式／講演会
(講師:tuperatupera 亀山達矢さん)
場所 福祉センター多目的ホール
入場 無料・講演会は要申込
(申込先:0265-33-4569)

第33回 喬木村駅伝大会

日時 令和5年12月3日(日)
場所 【開閉会式】
運動公園グラウンド
【コース】
村内7区間(計15.9km)
申込 11月24日までに右記QR
コード又は教育委員会窓口
でお申込ください



〈参加資格〉村内に居住・勤務する方、
村出身者、喬木村体育協会団体
登録者。※小学4年以上

<1月以降のイベント>

ふるさとづくりフォーラム

日時 令和6年2月上旬
場所 福祉センター
内容 「今日から始めるゴミニケーション」(仮)

お問合せ 喬木村公民館 0265-33-2002

十五年前の事、私の祖母は百二歳で往生を遂げた。祖父は早くに他界し祖母二人で子ども六人を育て上げた。その時の苦労話を昔聞いた気がする。私の父が亡くなり、その後の祖母の面倒を働きながら二十年ほど見続けていたのは母であった。母は祖母が亡くなるまでの数年間介護を続けた。加齢によるものか認知症によるものか分からないが、物忘れや近所に出かけて

架空の話をする祖母に、苦勞もあつたと聞く。
加齢と認知症について、信毎の「老化と寿命の謎を探る」という連載記事(十月十六日付)にシルバー川柳があつた。
・うまかつた何を食べたか忘れたが
・こんにちは笑顔で答えて名を聞けず
・動かないエレベーターや押し忘れ
これらの川柳は、認知症(病

気)とは異なる。はじめの句で、例えば縁日でかき氷を食べたとしよう。何を食べたかを忘れたと自覚している場合も食べたことも忘れてしまうのが認知症だという。納得!
先日、村の高齢者福祉懇話会があり出席した。要介護認定者の原因疾患として「認知症」の割合が最も多くなっている。また新型コロナウイルスの影響でフレイルが進行し、「関節・筋肉」を原因疾患とするかたが増加、とあつた。介護に関するサービスは年々向上するものの、コロナ後、健康は自分で努力して維持することがますます重要となっている。心したいがそこがなかなか、だ。

あのとき(このとき)

公民館長



今回の表紙

題字

真浄寺書道会 池上 咲さん
(飯田 OIDE 長姫高等学校 2年)
太い線ばかりではなく、細い線を書いて単調にならないようにしました。楷書や行書ではない、力強い牛欄造像記の字体で書きました。



写真

喬木カメラクラブ 仲田 博彦さん
何か撮ろうと田んぼの畔を歩いていた時、偶然クモがイナゴを食べているのを見つけた。クモにとっては秋の味覚。冬の支度をしているようだ。イナゴは哀れかもしれないが、これも自然の営みだ。



編集後記

私はおじいちゃんが大好きだった。私の小さな時は忙しい父母に代わって一緒に遊んでくれた。三輪車を後ろから押してくれたたり、裏から竹を切ってきて竹馬や竹ひごで凧も作ってくれたりした。七夕の時は大きな里芋の葉から一緒にしずくを取り短冊に願い事を書いた。茄子きゅうりの牛・馬も全部おじいちゃんが教えてくれた。私が進学で地元を離れる時は、腰が90度に曲がった体で庭の石に座り静かに見送ってくれた。年寄りと暮らす事、今は減ってきてしまったけれど優しく温かくいつも味方してくれる、そんなおじいちゃんと暮らせて私は幸せだった。

ご意見・ご感想 お待ちしております

館報を読んで思ったこと、感想をお寄せください。寄稿も大歓迎です!
喬木村の公民館報をみんなで作っていきましょう!
☎ 0265-33-2002
mail: syakai@vill.takagi.nagano.jp